

サービス提供から 「リエイブルメント」へ 京都C型事業所 実装からの学びと提言

既存デイサービスにおける「短期集中予防サービス（C型）」
導入・定着のための実践ガイド



可能性と実装の視点



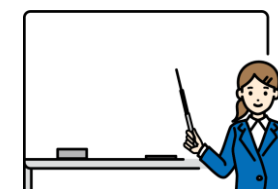
よかった点

- 生活目標の言語化
→利用者自身の行動選択の機会
- 3ヶ月という期限設定
→『卒業』を意識した関わり
- 実際に
→就Bへの移行というアウトカム



現場の実装から 見えてきたこと

- 既存の通所介護PG
→集団化・構成化されたサービス設計
- C型としての関わり
→日常業務の”合間”で行われた
- 結果として
→全く新しい業務ではなく、
『既存業務の再定義』に近い形で運用



今後に向けた示唆 (次に活かす視点)

- ① 人
職員が『何のためのC型』を共有できること
- ② 構造
既存サービスの流れで無理なく組み込める設計
- ③ 支援像
『やってあげる』ではなく
『本人が動くことを後押しする支援』

C型は『卒業』を出す制度ではなく、『支援の質を確認し、見直してみる』ではないか？

処方箋①【概念】：通所しなくても生活できる力を支える「リエイブルメント」

施設内での運動



地域生活（リエイブルメント）



何に向けての運動なのか？



C型サービスのゴールは、施設内での運動機能向上ではありません。

「通所しなくても自分たちでやる」ことを後押しする支援です。

この定義を現場と合意形成することが、すべてのスタートラインになります。

「体力の向上だけで良いのか？」



体力の向上

Hauser.er.al
(2003)

Tinetti.er.al
(1994)

心理的改善

- ◆グループ効果
- ◆人とのふれあい
プログラム（レク）
- ◆ボランティア（役割）

仲間づくりが大切

Hauser.er.al(2003)

「Cognitive impairment decreases postural control during dual tasks in geriatric patients with a history of severe falls.」

トレーニング群の改善した運動能力は、トレーニング後の身体的活動性につながっていない。外部からの支援がないと、以前の習慣的な生活スタイルに戻ってしまう。

活動的（主体的）な生活

Gardner.er.al(2000)

「Improved function outcome following exercise rehabilitation」

好きなことをやる
必要と思っていることをやる
Social interactionの活用

※運動だけでは活動的にならない！

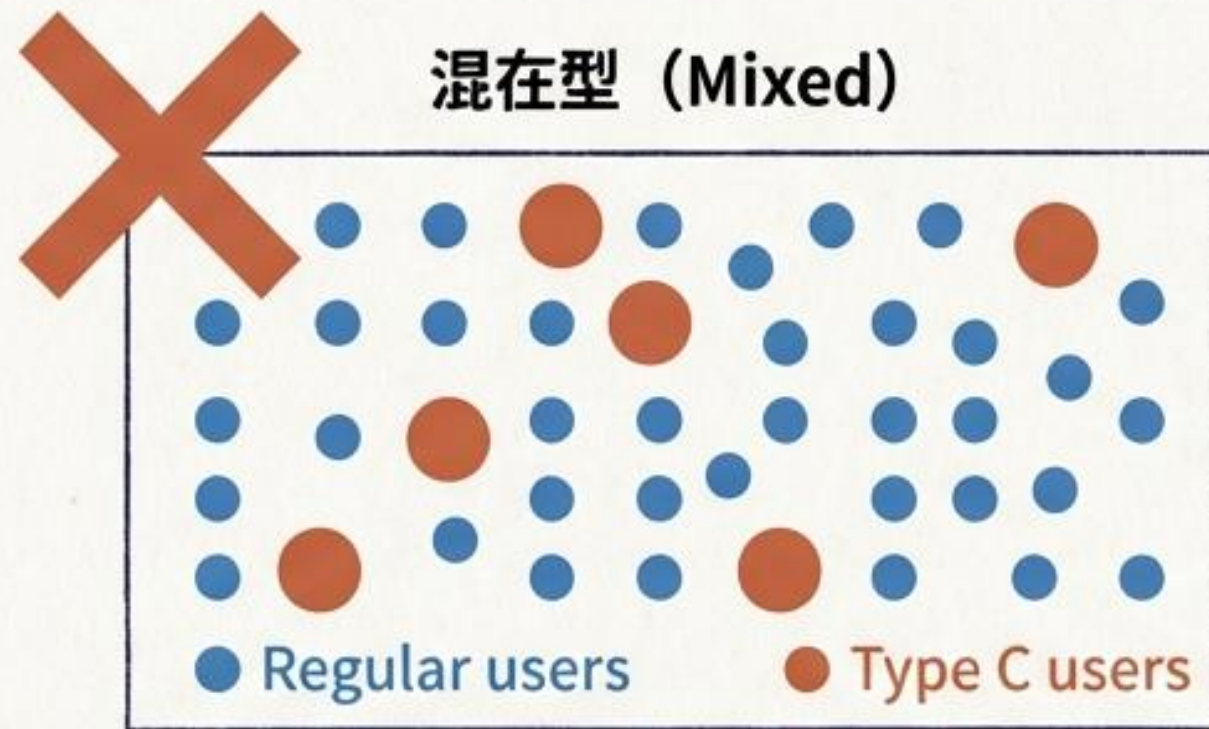


<参考>

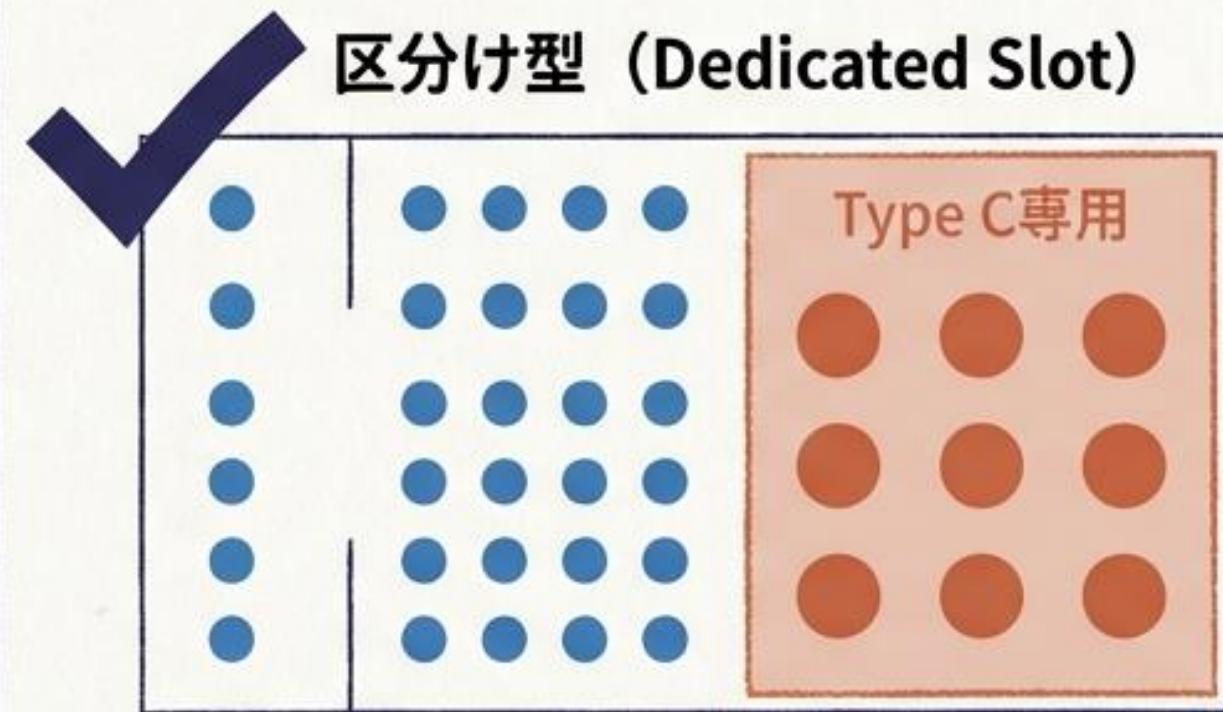
長崎大学 松坂教授 資料

小倉リハビリテーション病院院長 浜村先生 資料

処方箋②【構造】：既存利用者を「動かす」のではなく、専用の「枠」を作る



無理がある



C型専用の論理で動く

混ぜない勇気を持つ

「通常の利用者がいる席をどかせてC型を入れる」のは無理があります。
最初から「C型専用の時間枠・定員」を確保し、既存のプログラムとは異なるロジック（柔軟な面談時間の確保など）で運用できる環境を用意してください。

処方箋③【価値】：卒業へのアプローチは「支援の質」を問い直す機会になる

利用者を卒業させることを考えるプロセスは、漫然としたケアを見直し、事業所全体の支援を高めるきっかけにもなります。

「いつまでも通ってもらおう」から
「地域にお返しする」へ。

この転換が、選ばれる事業所への
進化につながります。



卒業 = 顧客喪失ではない

C型導入に向けた3つのチェックポイント



✓ 1. 構造 (Structure)

既存PGに無理やり組み込もうとしていないか？
専用の枠や時間を確保できているか？



✓ 2. 人 (People)

現場スタッフと「なぜやるのか」を合意できているか？
業務命令だけで動かそうとしていないか？



✓ 3. 支援像 (Vision)

「通所しない生活」をゴールとしてイメージできているか？

自分のところで全て行う？

さまざまなセクターとの**連携**も考えてみる

例えば

- ①入口（対象者を誰にするか）に関して、認定は受けているがほとんどサービスを利用していない方
→ ケアマネさん（包括支援センター）との連携
- ②実施に関して、近隣のスポーツジムとの連携
→自治体と予防事業などで連携している企業とコラボ
- ③出口（卒業）に関して、ものづくりやその他ものづくり系の企業などとの連携
→NPO、企業など就労的活動や飲食、ものづくりなどを行っているところとの連携

C型は『卒業』を出す制度ではなく、

『**支援の質を確認し、見直してみる**』取り組みではないか？

ありがとうございました

